

父子でアトピー治療を行った乳児期発症小児アトピーの経過 (2歳女児)

症例 ID：001-02-HN | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

父親は子どもの頃からアトピーがあり、長年ステロイドを使用していました。松本医院で治療を受け、症状が落ち着いていた時期に結婚し、娘が生まれました。

娘は生後1か月半頃から顔に赤い湿疹が出始め、顔一面に広がり、頬が硬くザラザラになりました。2か月を過ぎると耳たぶから黄色い液が出るようになり、小児科で脂漏性湿疹とされ、非ステロイド薬と説明された外用薬を使用すると2日ほどで顔も耳もきれいになりました。使用を中止すると、生後4か月頃には顔一面が赤くなり、引っかき傷で血だらけになりました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	娘には非ステロイド薬と説明された外用薬を使用しましたが、効果の強さから家族は不安を感じて中止しました。実際の成分は不明です。父親には子どもの頃から長期のステロイド使用歴があります。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	娘の使用期間は短期間。父親は長期使用歴があります。
中止時期	娘は効果の強さに不安を感じて中止しました。父親は松本医院受診後にステロイドを中止しました。
来院前／後	来院前に使用歴または使用疑いがあります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後1か月半頃	来院前	顔に赤い湿疹が出て顔一面に広がり、頬が硬くザラザラになりました。
生後2か月頃	来院前	耳たぶから黄色い液が出ました。外用薬で一時的に顔と耳はきれいになりました。
生後4か月頃	来院前	顔一面が赤く、引っかき傷で血だらけになりました。父親のアトピーも悪化し始めました。
1995年2月	治療開始	親子3人で松本医院への通院を開始しました。娘には漢方煎じ薬が処方されました。
生後6か月頃	経過中	離乳食を開始しました。牛乳で作ったパン粉が顔に触れ、顔半分が腫れたことがありました。
治療中	症状の波	体中の湿疹がジクジクしたり乾いたりを繰り返しました。
通院3か月頃	父親の悪化	父親のアトピーが悪化し、全身がジクジクし、1か月半ほど会社を休みました。
夏頃～1年後	回復傾向	漢方風呂を始め、娘は1か月ほどで遠目にはアトピーと思えないほどになりました。その後1年、良くなったり悪くなったり

		しながら少しずつ落ち着きました。
1996 年 8 月	治療終了	2 歳の誕生日を前に、治療終了となりました。

4. ピーク時期

ピークは、生後 4 か月頃の顔一面の赤みと出血を伴う掻破、離乳食で顔半分が腫れた時期です。父親は通院 3 か月頃に全身がジュクジュクし、会社を休むほど悪化した時期がピークでした。

5. 困りごと

- ・乳児に苦い漢方薬を飲ませることが大きな負担でした。
- ・離乳食に対する不安がありました。
- ・父親と娘の症状が同時期に強くなり、家族全体の負担が大きくなりました。
- ・父親は会社を休む必要がありました。

6. 経過のまとめ

娘は生後 4 か月頃に顔一面の赤みと出血を伴う掻破があり、治療中もジュクジュクしたり乾いたりを繰り返しました。漢方風呂開始後、1 か月ほどで遠目にはアトピーと思えないほどになりました。

その後 1 年ほど、良くなったり悪くなったりを繰り返しながら少しずつ落ち着き、1996 年 8 月、2 歳の誕生日を前に治療終了となりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。